

## 生涯学習概論

(解答はすべて解答用紙に記入し、この問題用紙に記入しないこと)

1. 次のAとBを読んで、下の問いに答えなさい。

A：中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申）」  
(平成8年7月)より

学校が社会に対して閉鎖的であるという指摘はしばしば耳にするところである。学校や地域によって事情は異なり、この指摘の当否を一律に断定すべきではないが、子供の育成は学校・家庭・地域社会との連携・協力なしにはなしえないとすれば、これからの学校が、社会に対して「開かれた学校」となり、家庭や地域社会に対して積極的に働きかけを行い、家庭や地域社会とともに子供たちを育てていくという視点に立った学校運営を心がけることは極めて重要なことと言わなければならない。(中略)

このような取組を通じて、学校が家庭や地域社会にとって垣根の低い、開かれたものとなることは、学校の教育活動をより多彩で活発なものにするとともに、家庭や地域の人々の学校に対する理解をより深めることに大いに資するものと考えられる。

B：中央教育審議会「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」(平成27年12月)より

社会総掛かりでの教育の実現を図る上で、学校は、地域社会の中でその役割を果たし、地域と共に発展していくことが重要であり、とりわけ、これからの公立学校は、「開かれた学校」から更に一歩踏み出し、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」へと転換していくことを目指して、取組を推進していくことが必要である。すなわち、学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通じて、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、学校の教育方針の決定や教育活動の実践に、地域のニーズを的確かつ機動的に反映させるとともに、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められる。

上のAとBの文章は、平成8年と平成27年に出された中央教育審議会答申の一部で、学校と地域の関わりの在り方について述べたものである。これを読むと、平成8年ころと平成27年ころの間で学校と地域の在り方に変化がみられるが、①その変化と背景について説明し、②今後の学校と博物館の望ましい関係について、①と②を合わせて800字以内で述べなさい。(30点)

2. 平成30年6月15日に閣議決定された第3期教育振興基本計画は、目標の一つとして「障害者の生涯学習の推進」を挙げており、「障害者が、学校卒業後も含めたその一生を通じて、自らの可能性を追求しつつ、地域の一員として豊かな人生を送ることができるよう、生涯を通じた教育やスポーツ、文化等の様々な学習機会の整備に関する関係施策を横断的かつ総合的に推進する」と述べられている。

障害者の生涯学習を推進するために、とりわけ学校卒業後にどのような対応が必要と考えられるか、400字以内で述べなさい。(15点)

3. 次の事項の中から2つを選び、それぞれ200字以内で説明しなさい。その際、各事項のキーワード2つを必ず用いて説明しなさい。(各10点)

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| ① シティズンシップ教育 | キーワード：主権者，責任        |
| ② リカレント教育    | キーワード：OECD，社会人の学び直し |
| ③ andragogy  | キーワード：成熟，pedagogy   |

4. 次の文章の( )に、下記の□の中から最も適する語を選択しなさい。ただし、使用は1回とする。(同じ番号の箇所には同じ語句が入る。)(各5点)

- ・博物館は、( ① ) 第9条で、図書館とともに「社会教育のための機関とする」と規定されている。
- ・平成27年に実施された社会教育調査(文部科学省)によると、( ② ) は、全国の( ③ ) に約1万5千館設置されている。
- ・( ② ) が( ① ) で規定され制度的に整備されたのは、( ④ ) のことである。
- ・( ⑤ ) 法によれば、公立館の利用については、「入館料その他( ⑤ ) 資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない」ことになっている。
- ・青年学級振興法は昭和28年に制定されたが、都道府県の( ⑥ ) 審議会についての規定がある( ⑦ ) は平成2年に制定されている。

ア 教育基本法 イ 生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律  
ウ 社会教育法 エ 博物館法 オ 図書館法  
カ 公民館 キ 博物館 ク 図書館 ケ 学校 コ 青少年交流の家  
サ 生涯学習 シ 社会教育 ス 市町村 セ 都道府県 ソ 地方公共団体  
タ 昭和50年代 チ 昭和40年代 ツ 昭和30年代 テ 昭和20年代 ト 昭和10年代